

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3	学年	3年	類型	カレッジコース
教科書	東京書籍 地理探究			副教材	東京書籍 要点マスター-地理探究 整理と実習				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境 1節 世界の地形	1 地形をつくる力 2 プレートの運動と様々な境界 3 変動帯の地形 4 安定地域の地形 5 河川がつくる地形 6 海岸と海にみられる地形 7 気候や地質の影響が強い地形	◎	○	「地理探究」は、「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒たち一人一人が「生涯にわたって探究を深める」ためのきっかけづくりとして位置づけられ、系統地理と地誌に大別される地理学の成果や方法をふまえた上で、地理的な諸課題を探究することを通して持続可能な社会を形成することを意図して学習内容が構成されている。
			2節 気候と自然環境	1 気候の見方 2 大気循環と気候 3 海洋と陸水 4 世界の植生・土壌 1 ケッペンの気候区分 2 熱帯の特徴と人々の生活	○	◎	
			3節 気候と人々の生活	3 乾燥帯の特徴と人々の生活 4 温帯の特徴と人々の生活(1) 5 温帯の特徴と人々の生活(2) 6 寒帯・寒帯の特徴と人々の生活 7 高山気候の特徴と人々の生活	○	◎	
	5		4節 日本の自然環境と自然災害 5節 世界の環境問題	1 地球規模の環境問題 2 地球温暖化の背景と影響 3 オゾンホール、大気汚染の背景と影響 4 森林破壊の背景と地域性 5 砂漠化・水問題の背景と地域性 6 日本の環境問題	◎	○	これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
			第2章 産業と資源 1節 産業の発展と社会的分業 2節 農林水産業	1 産業の発達 2 産業構造と地域構造 1 産業の立地と形態 2 世界のさまざまな農業地域 3 グローバル化と農業地域の変容 4 拡大する世界の農産物の流通 5 世界の林業・水産業	◎	◎	
			3節 食糧問題	6 日本の農林水産業 1 食糧問題の背景と地域性 2 食糧問題の解決に向けて 3 日本の食糧問題	○	◎	
	6		4節 エネルギーと鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題	1 世界のエネルギー需要 2 化石燃料 3 電力生産 4 金属資源 1 化石燃料への依存と国家間の対立 2 化石燃料から再生可能エネルギーへ 3 日本の資源・エネルギー	○	◎	① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。
			6節 工業の立地と工業地域	1 工業の立地と工業地域 2 繊維・鉄鋼・石油化学		○ ◎	
				3 自動車・エレクトロニクス 4 新しい技術と工業 期末考査	◎	◎	
	7		5 グローバル化と工業地域の再編 6 工業の知識集約化 7 日本の工業とその変容		○ ◎		② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。
			7節 第三次産業	1 サービスの経済化の進展と流通産業の発達 2 情報通信業とその発展 3 医療・福祉産業の課題	○	◎	
2 学期	8						③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
	9		第3章 交通・通信、紡績、観光 1節 交通・通信	1 交通の発達(1)、2 交通の発達(2) 3 情報通信技術の発達	○	◎	④ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			2節 貿易と経済連携 3節 観光	1 貿易の自由化と経済連携 2 現代貿易の課題 1 観光の発達と地理的展開 2 さまざまな観光	◎	○	
			第4章 人口、村落・都市 1節 人口	1 世界の人口分布と人口増加 2 人口動態と人口ピラミッド 3 人口移動の変遷と今日の姿	○	◎	
	10		2節 人口問題	1 発展途上国の人口問題 2 先進国の人口		○ ◎	⑤ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			3節 村落・都市	1 村落の機能と形態 2 都市の機能と都市システム 3 都市の内部構造と大都市圏 中間考査	◎	◎	
			4節 居住・都市問題	1 発展途上国の居住・都市問題 2 先進国の居住・都市問題 3 日本の居住・都市問題	◎		
	11		第5章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化の地域性 2節 民族・言語・宗教	1 文化と環境 2 世界の食生活 3 世界の住居・衣服 1 世界の民族と言語 2 世界の宗教	○	◎	⑥ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			3節 民族問題 4節 現代の国家と領土問題	1 世界の多様な民族問題 2 紛争と難民 3 民族問題をどう乗り越えるか 1 国家の領域と国境線 2 領土問題の要因と解決への取り組み	◎	○	
			第2編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分	1 地域区分の意義と方法	○	◎	
	12		第2章 現代世界の諸地域 1節 東アジア	1 中国の改革開放と急速に進む工業化 2 中国の農業・農村の近代化と都市化 3 環境問題などの課題 4 経済成長により広がる中国の影響力 5 韓国の経済成長と地域構造 6 韓国の都市、農村の変化と生活文化	○	◎	⑦ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			2節 東南アジア	1 東南アジアの多様な文化 2 東南アジアの地域性と農業 3 ASEANの政治と経済発展 4 国家間の格差などの課題		◎ ○	
			3節 南アジア	1 グローバル化と南アジアの経済発展 2 大都市の形成と格差 3 インドの人口増加と農村の変化 4 南アジア世界の多様性と統一性	○	◎	
3 学期	1	第3編 現代世界と日本の国土像	4節 西アジアと中央アジア	1 交易の歴史と人々の生活 2 乾燥地に適応した生活文化と宗教 3 資源開発にみられる二つの地域の違い	◎	○	⑧ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			5節 北アフリカ	1 多様な文化の成り立ち 2 モノカルチャー経済克服の課題 3 アフリカの発展と新たな課題 期末考査	◎	◎	
			6節 ヨーロッパ	1 ヨーロッパ統合の流れ 2 ヨーロッパの農業とその変容 3 ヨーロッパの産業とその変容 4 EUの拡大と地域格差 5 5つ星のヨーロッパ	◎	○	
	2		7節 ロシア	1 多様な民族と宗教 2 ポスト社会主義時代の暮らし 3 周辺国との産業・資源をめぐる関係の変化	○	◎	⑨ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			8節 アングロアメリカ	1 アングロアメリカの農業 2 多民族国家がかかえる問題 3 世界最大のアングロアメリカ経済 4 先端産業の発展と鉱産地域の変化 5 情報社会に移行する大都市圏	○	◎	
			9節 ラテンアメリカ 10節 オセアニア	1 ラテンアメリカの成り立ち 2 ラテンアメリカの産業の発展と経済成長 3 森林破壊などの問題 1 多文化共生の課題 2 オセアニアの資源と産業 3 オセアニアと他地域との結び付き	○	◎	
	3		1節 日本の地理的諸課題を読み解く 2節 持続可能な国土像の探究	1 日本の地域構造 2 日本の国土政策 1 課題と仮説の設定 2 仮説の検証と考察、さらなる探究へ		○ ◎	⑩ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
				学年末考査	◎	◎	
			家庭学習				
	3		〃				⑪ ①、②をふまえ、我が国が抱える地域的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			〃				
			〃				

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- あなたは、あなたが住む地球(世界)のことをどれだけ知っているでしょうか。
- わたしたちを取り巻く地球環境や国際情勢は日々変化を続け、わたしたちの生活圏から地球規模にいたるまで数多くの課題を抱えています。
- これらの諸課題を解決するための方法や工夫は、地理的な見方や考え方を身につけることで見いだすことができます。
- そのためには、地球上のさまざまな自然環境や生活文化、産業といった地理的事象や世界の諸地域について認識し、多面的・多角的にとらえる必要があります。
- 21世紀を迎えた今日、地球上には80億を超える人類が暮らしています。その暮らしは多様であり、全てを知ることは到底できません。でも、わたしたちとは異なる暮らしを学ぶことによって、より広い視野で地球と世界の問題を見つめることができると思います。
- 地球と世界の現状を知り、未来を語る旅に出かけましょう！

【授業】

- 週に3回の授業があります。
- 基本的に1時間に1枚プリントを配り、教科書や地図帳を用いて基本的知識を身に付けます。
→日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
- 地理は「どこに何があるか」が基本(大前提)にある学問です。
→普段から、地図帳を見る癖をつけておきましょう。
- 地理では、データや統計資料を活用して、作業学習や調べ学習を行います。
→課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「演習問題」などを参考にしてください。

【家庭学習】

- 地理は決して机上の空論ではありません。生きた学問です。
→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことが大事です。
- 学習内容の振り返りを行う際には、「確認しよう」などを参考にしてください。

【定期考査】

- 年5回実施の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。

◆評価の方法、規準

評価の方法	ア 年5回実施の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。	
	イ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。	
	ウ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。	
	エ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(①、②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均で評価します。 (上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。)